

能登半島地震等での教訓を踏まえ、災害時の応急復旧に必要な資機材や備蓄品等について、平時より把握しておくべき情報の整理、当該情報の効率的な更新手法の検討、広域的な融通を円滑に行うための課題抽出・解消策の検討を行うとともに、ブロック単位での試行訓練を実施すること等により、建設業者による災害対応力の強化を図り、国民の安全・安心を確保する。

背景・課題

- ✓ 能登半島地震等を通じ、応急対策や復旧活動等に不可欠となる資機材や備蓄品の円滑な調達等に課題が浮上。
- ✓ 稼働可能な建設機械の所在把握やエリア内に備蓄されている物資情報の収集に時間を要することが、発災時の初動の遅れにつながるおそれ。
- ✓ 各都道府県建設業団体等が応急復旧のために備蓄する物資（ブルーシート、土嚢、発動発電機、作業員用仮設トイレ等）に限度がある中、広域的に円滑かつ迅速に融通できる仕組みの構築が必要。



予算内容

建設業者による応急復旧に不可欠な資機材や備蓄品に係る情報の収集・整理

○被災地の応急復旧に必要な資機材や備蓄品等について、迅速かつ円滑に広域的融通が可能となるシステムを構築し、当該システムを各都道府県の建設業協会へ展開。

情報の整理イメージ

		備蓄品			機材
		土嚢	ブルーシート	発動発電機	バックホウ
A県a市					
	X社	●	×	×	●
	Y社	●	●	●	×
	Z社	●	×	●	×

＜当該事業のイメージ＞

① 平時より収集すべき情報の整理

- 大規模災害への応急復旧経験を有する者へのヒアリング等により、全国統一的に平時から収集すべき情報の整理

※想定される主な情報

- ・ 具体的な資機材、量、配置場所
- ・ リース会社等が提供可能な資機材を含む

② 仮システムの試行運用

- ①をもとに簡易システムを構築
- 簡易システム試行運用に当たっての課題整理

※整理すべき課題（イメージ）

- ・ システムの更新頻度、更新手法、更新主体
- ・ 建設業協会、自治体、国の役割分担や費用負担

③ 簡易システムを活用した訓練

- ②の課題を踏まえた簡易システムを構築
 - モデル地域となるブロックにおいて当該システムを用いた実地訓練※を実施し、オペレーションを検証。
 - 訓練を通して浮き彫りになった課題を踏まえ、簡易システムを修正。
- ※訓練実施に必要な範囲内で資機材の調達を行うことも想定

④ システムの配備

- ③により構築したシステムを全国の各建設業団体へ配備。
- 発災時の初動対応について、システムの利用方法と併せて普及啓発

将来のビジョン

発災時に活用可能な機械・資材の所在の迅速な把握、広域的な指揮系統の整理が可能になり、応急復旧の初動を円滑化